

3 雁行形態で高度成長する地域経済

下の二つのグラフ（図 2-3-1、2-3-3）は、31 省・市・自治区の成長力の違いを 10 年毎の時代別に見たものである。ここには大空を編隊飛行する雁のごとく 31 省・市・自治区が競い合って成長を続ける姿が描き出されている。

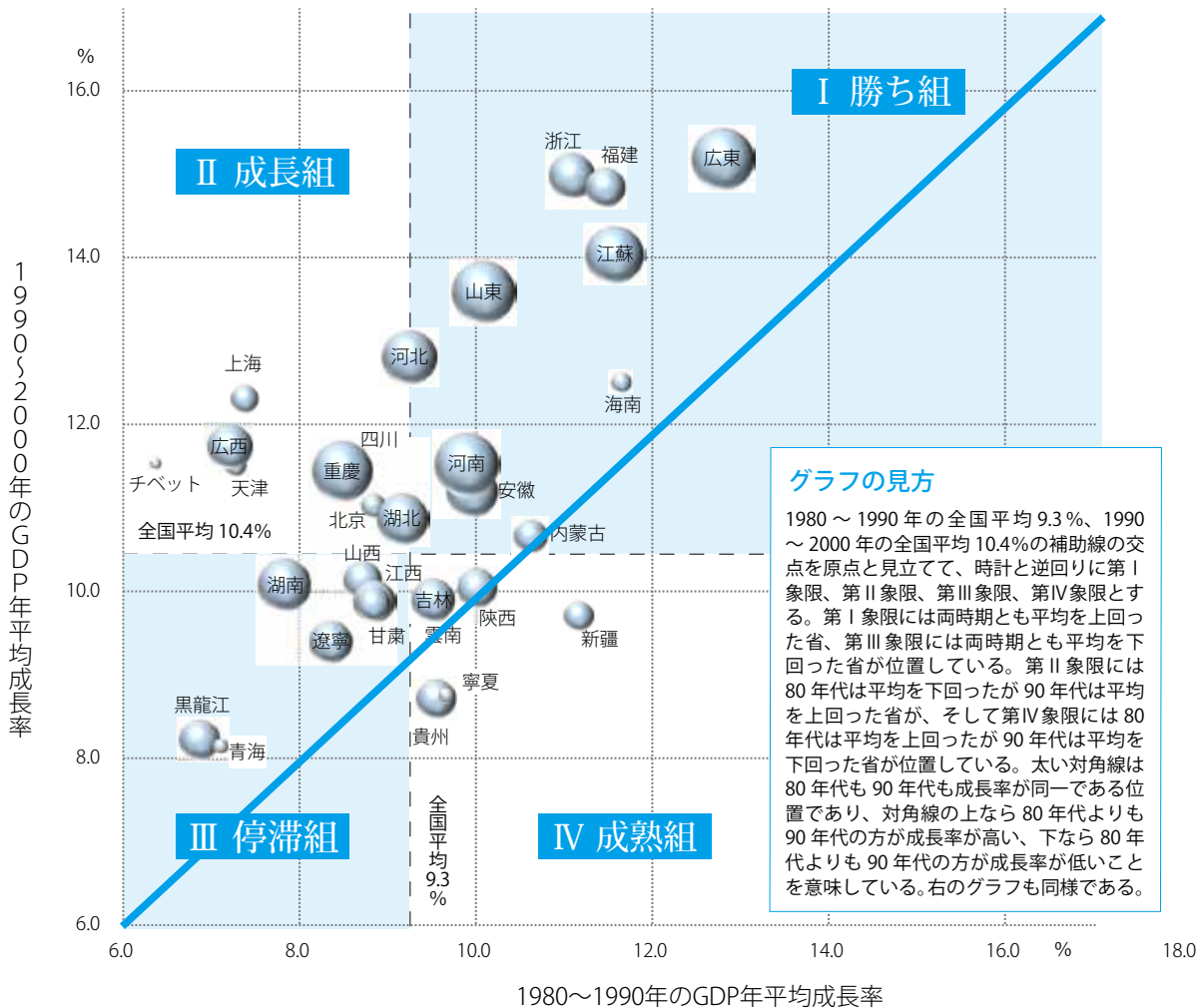
図 2-3-1 の X 軸は 1980～90 年の年平均成長率、Y 軸は 1990～2000 年の年平均成長率であり、両者の交点に省名を記してある。図 2-3-3 の方は、X 軸が 1990～2000 年の成長率、Y 軸が 2000～13 年の成長率である。

図 2-3-1 で、対角線の上部・第 I 象限にある広東、江蘇、浙江、福建、山東などは 80 年代も 90 年代も全国平均を上回り、しかも 90 年代に自らの 10 年前の成長率を上回った「勝ち組」である。しかし、図 2-3-3 では、これらの省は「勝ち組」だが対角線の下に位置していて、2000 年代に入って成長がスローダウンしている。2000 年代に 90 年代より高い成長を示したのは内蒙古、天津、重慶、四川など対角線の上部・第 I 象限にある省である。対極にあるのが黒龍江で、二つのグラフでともに第 III 象限の停滞組にあり、計画経済の「東北病」から抜け出せないでいる。また、図 2-3-3 で上海が成熟組に入っていることも注目される。

（データ出所）『中国統計年鑑』2013 年版、各省市自治区の統計年鑑 2013 年版

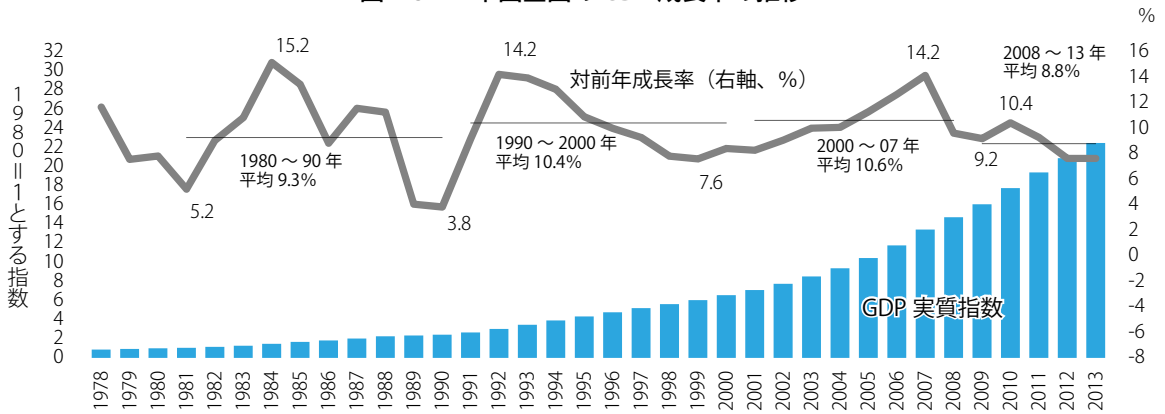
1980～90年代は広東、江蘇、浙江、福建、山東などがリードした

図 2-3-1 1980 年代と 1990 年代の平均成長率の相関



中国全体で1980年以來、年率9.9%の高度成長が続いている

図 2-3-2 中国全国の GDP 成長率の推移



2000年代は内モンゴ、天津、重慶、四川などがリードしている

図 2-3-3 1990年代と2000年代の平均成長率の相関

